

50期の重点実施事項



トヨタ自動車 (株)
二橋 岩雄

2020年11月より、本学会の会長を務めることになりました。50年度の1年間ですが、どうぞよろしくお願いたします。

新型コロナウイルスが世界に蔓延し終息が見えない中、あらゆる人々が不安を抱えて生活し苦しんでいます。しかし歴史はどんな疫病も、いつかは克服の時を迎えることを示しています。見通しのつかない間は心と体の自己免疫力を意識して高め、自らの判断で乗り切るしかないのだと思っています。

経済活動に関しては疫病が無くても、様々な経営環境の変化が生じてきます。ポストコロナの先のような社会課題や経営課題に対処しなければならないか、企業は新たなリスクを想定して先手を打つと共に、絶えず変化に対応できる柔軟な経営体質をつくらなければなりません。

そのためにリーダーは今を渦中ではなく、変革のチャンスと捉えて元気よく組織を牽引していく必要があります。今世間では緊急対応としてのテレワーク、在宅勤務や財務基盤の強化にマインドが行きがちですが、最も大切なことは、人と組織の活力を最大限に引き出すTQMの推進を通じた人材育成ではないでしょうか。

昨年11月28日に開催された年次総会の新会長講演では、日本品質管理学会創設50周年を迎えたことを踏まえ、長期にわたる産業構造の変化と学会活動の変遷を重ねたうえで、学会の抱える様々な課題と今後の取組みの方向性について述べて頂きました。その骨子は、中計検討WGにおいて議論し

た内容に準じています。

学会として今後何をなすべきか、新たな50年に向けて、これからも世の中から必要とされる存在であり続けるために、まずは学会のミッション（存在意義）とビジョン（目指すゴール）をわかりやすく再定義しました。その上で具体的な実施事項を中計（3ヶ年計画）として立案しました。

中計初年となる本年度は会員・賛助会員にとって魅力ある学会とすべく、会員の皆様の声をお聞きして、様々な情報提供と学びの場づくりを進めます。

また、品質管理の正しい理解と普及の促進により、安心して豊かな社会の実現へ貢献してまいります。今後理事会を中心に議論を進め、実行できるアクションプランに落とし込む予定です。会員の皆様には中計（3ヶ年計画）に掲げた項目（WGによる活動）への積極的な参画をお願いします。

「あらゆるQuality（質）向上に役立つ技術・手法を研究・開発し、その成果をすべての分野に普及させる」という学会のミッションを果たすことで、「我が国の生産性・国際競争力を再び世界トップに押し上げるとともに、その成果を以って国際社会の発展に貢献」することを、会員の皆様とともに目指していきたいと思っています。

末筆ながら5月28日（金）に、50周年記念シンポジウムを、「変動する時代に飛躍する未来志向の品質経営」というテーマで開催する予定です。多数のご参加をお待ちしています。

会長退任にあたって



早稲田大学
棟近 雅彦

2018年11月より、48期、49期の会長を務めてまいりましたが、2020年11月28日の総会をもちまして、会長を退任いたしました。この場をお借りしまして、会員の皆様へご報告と御礼を申し上げますと存じます。

まず、学会名称変更についてです。総会でも申し上げましたが、皆様に回答していただいたアンケート結果を参考に、理事会で継続して議論してまいりましたが、今回は名称を変更しないことにいたしました。アンケートでは、変更しない方がよいと回答された方が6割でした。これはあくまでも参考で、理事会で議論し決めさせていただくことをお伝えしていましたが、理事会の中でも変更しない方がよいという意見がかなりありました。私自身は、多少反対意見があっても変更するつもりでおりましたが、会員へのアンケートで、比較的若い方々にも変更しない方がよいとの意見が強く、最終的に変更しないことを理事会に提案し、了承されました。今後、学会の目指すべき方向と合わせて継続して議論していただくよう、次期理事会に引き継ぎました。

2018年11月に会長に就任してからは、小原前会長が進めてこられたことを継承し、中長期計画“QSHIN2020”を達成すべく、品質不祥事対応、新部会の立ち上げや標準化の推進、JAQ設立準備、組織体制の整備、ジャーナルの見直し、50周年記念事業の準備等の課題に取り組んでまいりました。特に事業の活性化は、今後の財政基盤の安定化のためにも重要と考え、斉藤事業委員長を中心に、様々な事業を企画しておりました。

しかし、ご存じのように、新型コロナウイルスの感染拡大により、2020年4月には緊急事態宣言が発令されることになってしまいました。本学会も、

9月までのすべての行事は延期という措置を告知させていただきました。理事の方々には、まずは本業での対応が不可欠であり、そちらを最優先にさせていただくことをお願いしました。どのような業種の方でも悪影響を受けるというのは初めての経験で、パンデミックの恐ろしさを痛感いたしました。

まだコロナ禍については先行きが不透明ですが、いつまでも学会活動を止めるわけにはいきませんので、少しずつではありますが、オンラインによる事業を再開し始めました。11月28日の年次大会、総会を無事オンラインで開催することができました。本学会としても、少しずつノウハウがたまりつつありますので、50期は、コロナ禍の中でもかなりの事業を進めていけると予測しております。

私は、本学会の医療の質・安全部会の部会長も務めており、例年部会主催で「医療の質マネジメント基礎講座」というセミナーを集合研修の形で開催してきました。今年度は急遽オンデマンドコンテンツを作成して、10月から配信を始めましたが、昨年度までの倍近い方に申し込んでいただきました。地方の方、スケジュール調整の難しい方にとって、とても受講しやすくなったようです。瓢箪から駒ですが、工夫次第で、会員の方へ有用なサービスを十分提供できることを実感しました。

残課題が多いことに悔いが残りますが、今後は1会員として、残課題に取り組む所存です。最後になりましたが、コロナ禍の中でも会員の方々には、ご支援をいただき感謝申し上げます。特に、理事・監事の方々には、本業でのコロナ対策に追われる中で、理事会の運営にご尽力いただきました。また、事務局の方々にも支えていただきました。感謝の念に堪えません。ほんとうにありがとうございました。